

平成20年4月17日

「食品に関するリスクコミュニケーション-食品中の鉛について考える-」の概要

1 目的

食品安全委員会による食品のリスク評価(健康影響評価)は、厚生労働省や農林水産省などのリスク管理機関から諮問を受けて行うほか、自らの判断により行うことができる。食品安全委員会企画専門調査会では、潜在的リスクがあると考えられるもの、国民の関心が高いもの、社会的影響が大きいものについて、優先的に自ら評価を行うこととして案件を選定しているところである。その審議の中で、鉛の規格基準値は個別に設定されているが、その基準は設定から時間が経過しており、また、食品中に広く分布する金属でもあることから、個別の規格基準の改正等を行うにあたって、食品からの摂取全体を対象にした評価の必要性が挙げられている。

これらを受け、今後、食品安全委員会において、自らの判断により食品中の鉛のリスク評価を実施する必要性を含め、鉛に関する基礎的知識やリスク管理の状況等について、関係者相互における情報及び意見の交換を行う機会を設けることとした。

2 開催内容

(1) 日時及び開催地

日付	時間	開催地	参加者数 (関係者を除く)
平成20年3月19日(水)	14:00-16:30	東京都千代田区	60名
平成20年3月26日(水)	14:00-16:30	大阪府大阪市	41名

(2) プログラム

①講演

- ・食品中の鉛を自ら評価の案件とした経緯

日野 明寛(内閣府食品安全委員会事務局次長)

- ・鉛の基礎的知識

千葉 百子(国際医療福祉大学薬学部教授・東京会場)

堀口 俊一(大阪市立大学名誉教授・大阪会場)

- ・陶磁器等及び乳幼児玩具の鉛等の規格基準の改正について

光岡 俊成(厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課課長補佐)

②会場との意見交換会

(各開催地における登壇者は別紙1参照)

(3) 概要

事務局から、自ら評価の案件とした経緯を説明した後、専門家から鉛に関する科学的な知見の講演と、現在の鉛に関する規格基準や改正の動きについて厚生労働省からの説

明が行われた。その後、講演内容への質問も含め、会場参加者との意見交換を行った。その結果、食品安全委員会が食品中の鉛のリスクについて「自ら評価」を実施することに対する直接的な賛否意見は少なかったが、評価を実施する際に留意してほしい点等に関する意見や情報が出され、評価の実施に関しては、概ね肯定的な反応が得られたといえる。

また、アンケートでは、「自ら評価」に加え、鉛に関して、清涼飲料水等個別の案件についても迅速な対応を望む意見もあった。

3 意見交換時やアンケート自由記述内で出された主な意見等（別紙2参照）

- 食品中の鉛について「自ら評価」として実施することに関して賛成である。
- 評価にあたっては、ハイリスクグループ（小児）の摂取量のばらつき等を十分考慮するべきであろう。
- 自ら評価によって出された結果（PTWI等）をどのようにリスク管理に活かしていくのかについても検討するべきではないか。
- 「自ら評価」実施前の意見交換会の開催は、適切である。
- 鉛の基礎的知識や基準改正に関する質問が多く、食品中の鉛についての「自ら評価」の実施の是非に対する意見が少なかった。意見交換会の主旨の説明が不十分だったのではないか。

4 アンケートの結果（別紙3参照）

＜会場との意見交換時の登壇者一覧＞

開催地	登壇者等
東京 大阪	司会進行 小平 均（内閣府食品安全委員会事務局リスクコミュニケーション官）
東京	登壇者 千葉 百子（国際医療福祉大学薬学部教授） 光岡 俊成（厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課課長補佐） 日野 明寛（内閣府食品安全委員会事務局次長） 平原 嘉親（内閣府食品安全委員会事務局評価専門官）
大阪	登壇者 堀口 俊一（大阪市立大学名誉教授） 光岡 俊成（厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課課長補佐） 日野 明寛（内閣府食品安全委員会事務局次長） 平原 嘉親（内閣府食品安全委員会事務局評価専門官）

食品に関するリスクコミュニケーション(東京・大阪)

一食品中の鉛について考える一

寄せられた主なご意見等について

本資料は、意見交換会の会場で寄せられたご意見等と、会場にて回収したアンケートに寄せられた意見等を併せ、とりまとめている。は、意見交換会時。

なお、意見交換会の議事録が後日、ホームページに掲載される予定。

分類	No	ご意見等
食品中の鉛について「自ら評価」として実施することに関して		
	1	食品の鉛に対する「自ら評価」は賛成。
	2	タイミングについては食品安全委員会自ら評価としては十分良いと思う。ただ、国としては遅すぎる感が否めない。
	3	コーデックス委員会では2004年ということであったので、適切であると思う。(水道管など代替しているものが我が国では一定進行しているバックがあって)
	4	重金属に絞って考えるならば、土対法(土壤汚染対策法)も既に施行されているので、食品中の重金属影響を調べる必要がある時期にきている。
	5	自ら評価という業務があることを知らなかった。依頼業務(諮問)で多忙を極めていることと思うが、今後自ら評価を積極的に実施してほしい。
	6	リスク評価の多大さ、大変な作業だと思う。ゴールが楽しみである。
	7	厚労省は(鉛について)食品に関しては実施していない。日本では鉛の暴露が多いが、以前からもあった。(鉛に関して)食品に関して何か問題があったのだろうか。
	8	鉛の健康影響についての切迫性が伝わらなかった。
	9	通常の食生活では健康被害はでないということだが、そうなるとリスク評価をする必要性はあるのだろうか。
	10	特殊な食品を除き、鉛が高濃度に含まれる加工食品はないと思う。食品に関しては、何故今?と感じる。
	11	示された情報からでは、現状が正確に認識できない。
	12	疫学的な情報が少ないので判断しにくい面がある。

評価を行うにあたり、考慮してほしい点に関して

13	調理器具等の表面の劣化について、リスク評価の際に考慮してほしい。
14	食品中の鉛濃度とは、調理段階も含めた評価がされるのか。
15	鉛の摂取量の安全への影響は、年齢ごとやハイリスクグループ等、グループごとのPTWIIに対する充足率？を示して欲しい。さらに平均ではなく、95%タイル、99%タイル等も必要と思う。
16	リスク評価をするにあたって特に気になるのは、普段の生活の分と事故(子供が飲み込む)等は別の話だと思う。
17	鉛の暴露シナリオとして、大気や水道水からの影響を何%くらいと考えているのか。
18	遺伝子組み換えやBSEのように、食品にしか関係しないものではなく、鉛やカドミウムなどの汚染物質は大気や土壌からの摂取も考える必要があり、環境省や経済産業省などともトータルにリスク評価をするような枠組みにしないといけないのではないかと。

評価を始める前に意見交換を実施することについて

19	評価前での意見交換は、評価に意見できる、参加できるということで、意義はあると思う。
20	この段階での開催は、適切である。
21	開催すること自体はとても評価する。
22	公開の場で意見を交換する機会が設定されたことはよかったと思う。
23	(自ら評価の)テーマ選定の考え方の一つに「評価のニーズが高いもの」という考えがある以上、事前に意見交換は適切。
24	食品からの鉛の摂取が健康被害に影響しており何らかの規制を必要とするのではないかと誤解を与えるおそれがある。
25	この意見交換会の反応によっては、実施しようと考えていた評価をとりやめることもあるのか。それとも実施することは決定済みなのか。
26	リスク評価を十分に実施した上で、リスクコミュニケーションを実施すべきである。

「自ら評価の結果」に関して

27	自ら評価についてもリスク管理機関(リスク評価の出口)を踏まえたものとする必要があると考える。
28	リスク評価をしたところで食品の規格をつくるのが難しいとすれば、どこで規制するのか？PTWIIに対して食品から摂取する鉛は何%におさえない等目標はありますか？
29	今回の説明ではおもちゃなど限定されたもののみだったが、これを一般食品まで広げるのか、どこまで本格的に取り組むのかの説明がいまひとつ不十分。明確な基準ができないと思われるので、食品については過度の規格設定をしないことを望む。
30	食品中の鉛について、今後規制等はどうなるのか。
31	PTWIIを出した際、厚生労働省に対して、食品個々の基準値を設定するように進言するのか。

リスク管理(規制、規格基準等)に関して

32	歴史的有害地等経緯があるが、鉛の有用性(生体影響ではない)についても考慮に入れての規制が必要であろう。
33	乳幼児対象製品については、使用規格は(乳幼児の行動が)予期せぬものがあるので十分な注意が必要。
34	おもちゃを入れる家具(おもちゃ箱)が対象に入るか明確にして欲しい。
35	ハーモニカのような、子供が直接触れる楽器は、どのように考えればいいのか。おもちゃにあたるのか。
36	小児の中で現在のJECFAの暫定PTWIを超えているものが既にあるのではないかと。ハイリスクグループとも関係してくるので、どのように規制することになるのか。
37	マーケットバスケット調査の結果として、小児の平均は、JECFAの暫定PTWIの23%となっているとのことだが、95%タイルや99%タイルとした場合は、どのくらいこの曝露量の%が上がるのだろうか。
38	食品と接触の可能性のあるものは、規制の対象とするよう検討して欲しい。
39	規制に関して、海外との整合性をどのように今後とっていくのか。ポジティブリストのような「一律基準」などが設けられるのか。
40	ハイリスクグループに対する諸外国のリスク管理状況が知りたい。
41	本筋からはずれるかもしれないが、犬などのペット用のぬいぐるみの鉛は考慮されるのか。(乳幼児が犬と一緒にペット用のぬいぐるみで遊んでいるのをよくみかけるので)
42	食品衛生法の規格基準については制定されたいきさつが分からないものが多い。こういった法律を改正するにあたってその辺りをもっと国民に周知頂きたい。その点に関してのHP等での情報もまだまだ一般国民には分かりにくい。改正のいきさつ(どうして法律で規制しないといけなかったのか)が分からないと、危害分析する上でも困ることがある。
43	鉛の規格について、現行1 $\mu\text{g}/\text{ml}$ と改正後、90mg/kgの整合性は? この規格と米国のCPSCの溶出0.06%含有の75 $\mu\text{g}/\text{g}$ との整合性は?
44	法規制としては「おもちゃ」というカテゴリがあまりに判りにくい。規制が増える中、かなり不思議である。実際、自分が経験した中では、携帯ストラップ等カニカンがロット差が激しく、すごく鉛が含まれているものがあるので、気になっている。
45	ISO規格をそのまま、日本の規格基準にもってくるのは安易ではないか。文化、環境など異なる面もあるのではないかと。

リスクコミュニケーションについて

46	食品安全委員会の食品の安全性に対する取組みへの日々の尽力が伺えた。これまでの公開講演会のうち最も具体的に明確に、学問的根拠によるものであった、と思う。今後もこのような催しがなされることを期待する。
47	一般の方へのリスクコミュニケーションの重要性を考えながら聞いていた。法での規制の範囲であっても、リスクを強く感じる市民もいる。
48	講演に関しての質問が多く、食品中の鉛評価に対しての意見がなかった。主旨からして、意見を求めていったほうがよかったのではないかと。
49	今回(意見交換会)がどの段階なのか、案内から分かりずらかった。
50	何が(意見交換会の)目的だったのか、目的にそった議論になっていたのか疑問が残った。

51	「食品中の鉛について考える」というテーマの立て方が適当でないのではないか。
52	主題と内容が少しずれているように思う。「食品中の鉛」ではなく、容器等やおもちゃ由来の鉛とすべきである。
53	官公庁の都合のいい縦割り話は、リスコミで話しても反感しか返ってこないのなのに、と残念に思った。
54	リスク評価する前から、「安全だ」といったような話では、リスクコミュニケーションをする意味がない。
55	54番の意見はまったくその通りだと思う。何のためのリスコミなのか、大変貴重な意見で、(リスク)評価する際には是非考慮していただきたい事項である。
56	講師による鉛の基礎知識が古い。新しい知見や国際的な情報をきちんと市民に伝えるべきである。リスク評価とは何かを最初に説明し、何を問題とするのか説明しないとコミュニケーションがとれない。食品安全委員会のリスクコミュニケーションのレベルの低さに驚いた。
57	一般消費者へ、不安にならない様な情報の出し方を希望する。(日常生活における鉛の問題などを具体的にお願いする)
58	リスク評価の手法がまだまだ認知されていないと思った。さらなるPRが必要ではないか。
その他の意見	
60	鉛の人体への寄与は経口＞吸入という理解でよい。
61	鉛のことは余り身近に感じておらず、新たに意識するようになった。
62	科学的根拠やデータなどが挙げられていなかったで背景についてはわかったが、どのくらいの健康影響があるのかについてはあまり理解できなかった。
63	鉛の基礎的な情報も大切であるが、摂取上限量など実際に食品を摂取することを想定した数値等の設定根拠について教えて欲しかった。
64	国際的基準に合わせるために改正すると思うが、日本人ならではの食生活で危ないヒ素やカドミウムも検討に入りたい。
65	不要なパンフレットを返却させるのはとてもいい。

食品に関するリスクコミュニケーション(東京・大阪)

ー食品中の鉛について考えるー

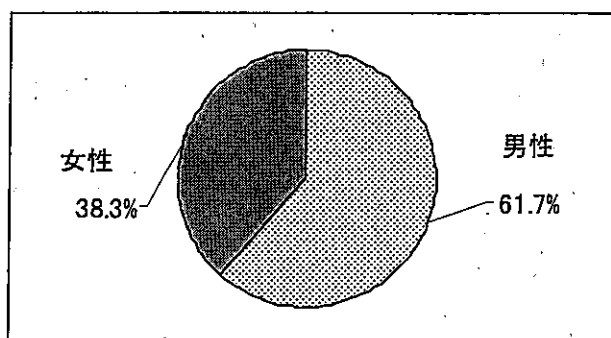
アンケート集計結果

開催日: 2008年3月19日(水)・3月26日(水)

アンケート回答率: 70.6%

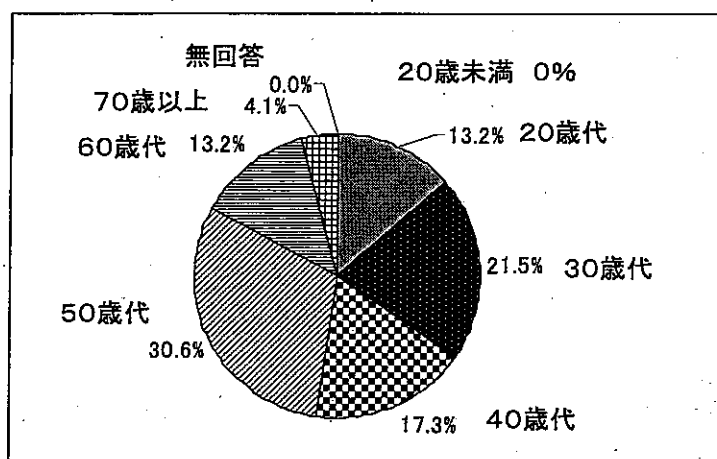
問1 あなた自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きます。
以下の設問について、それぞれあてはまるもの1つを選んで番号を○で囲んでください。

①性別

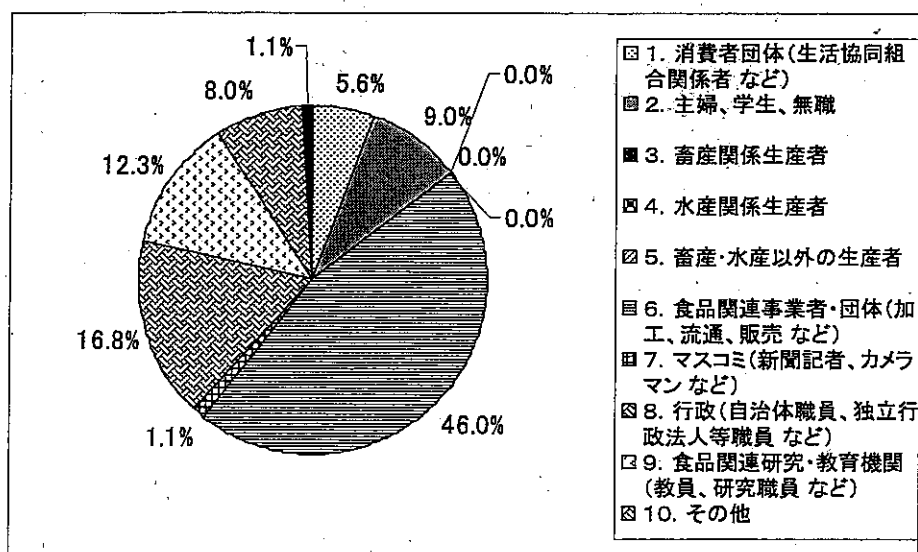


小数点以下第二位の四捨五入により、割合の合計が100にならない場合があります。

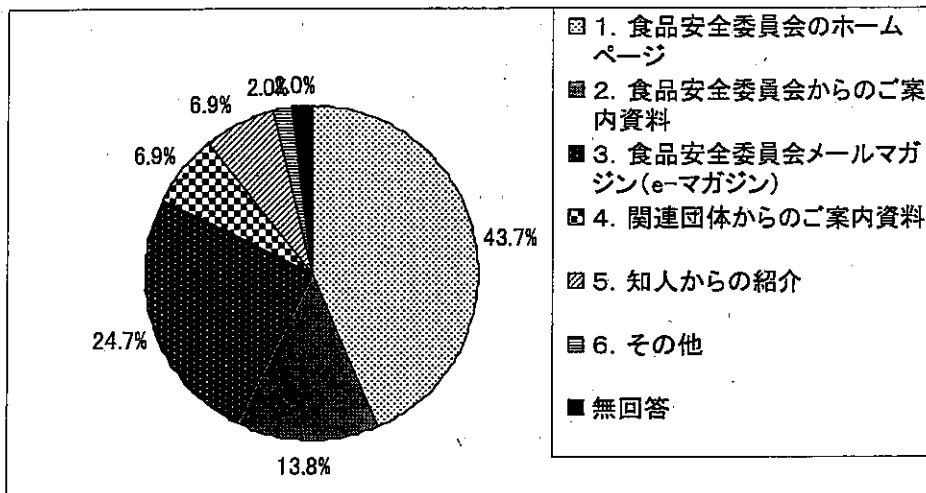
②年齢



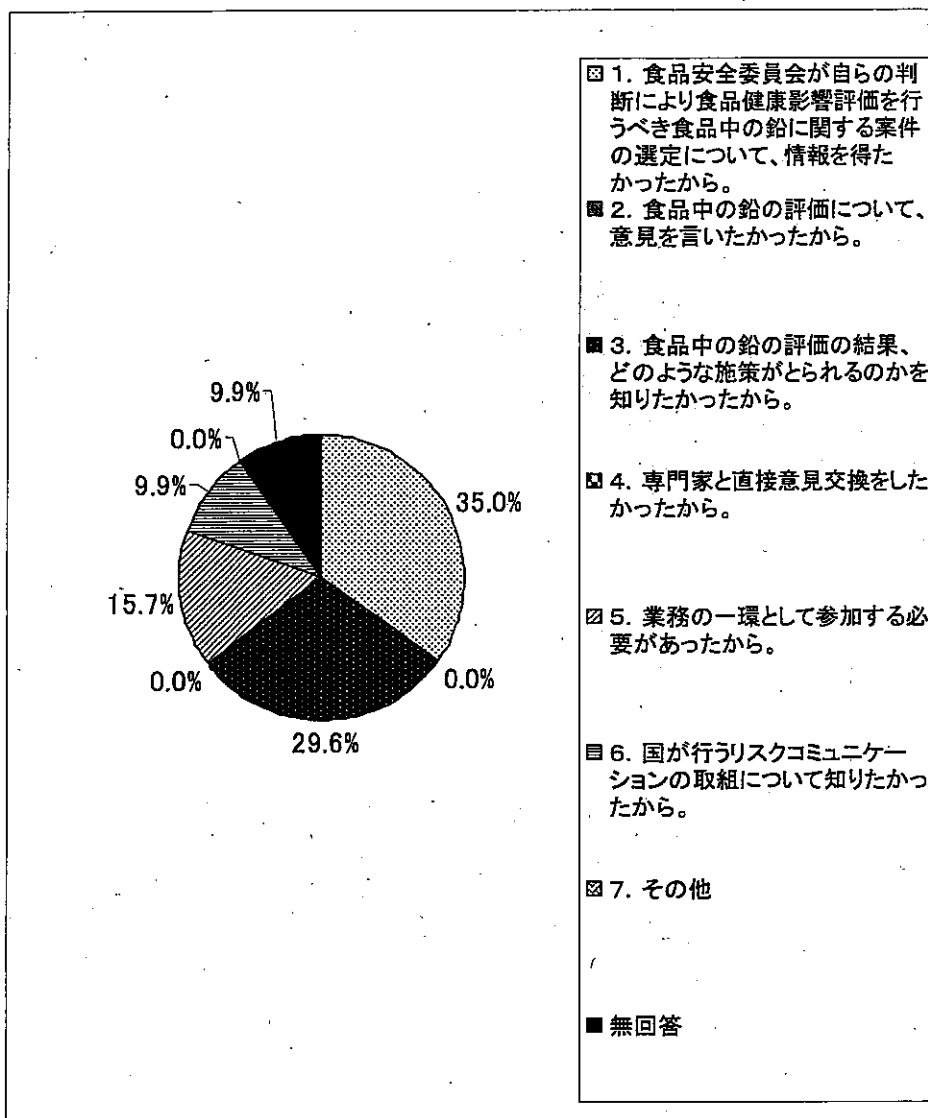
③職業



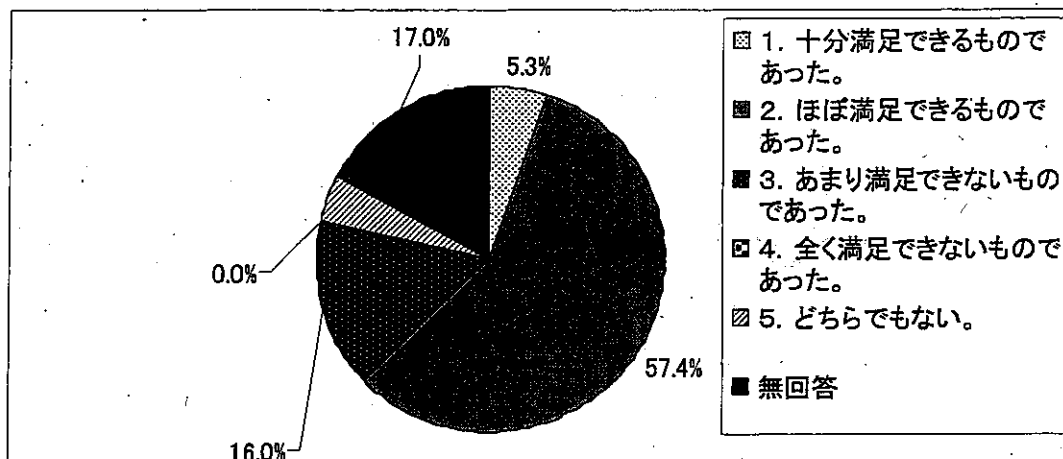
④本日の見聞交換会開催をどこでお知りになったか。



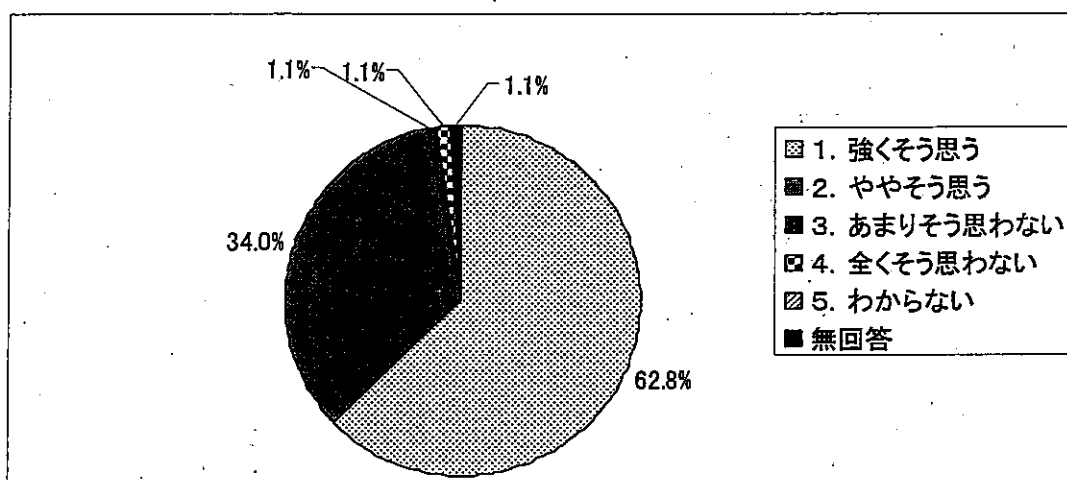
⑤本日の見聞交換会に参加された目的



⑥本日の意見交換会は、⑤でお答えいただいた、ご参加の目的に対して、どの程度満足できるものでしたか。

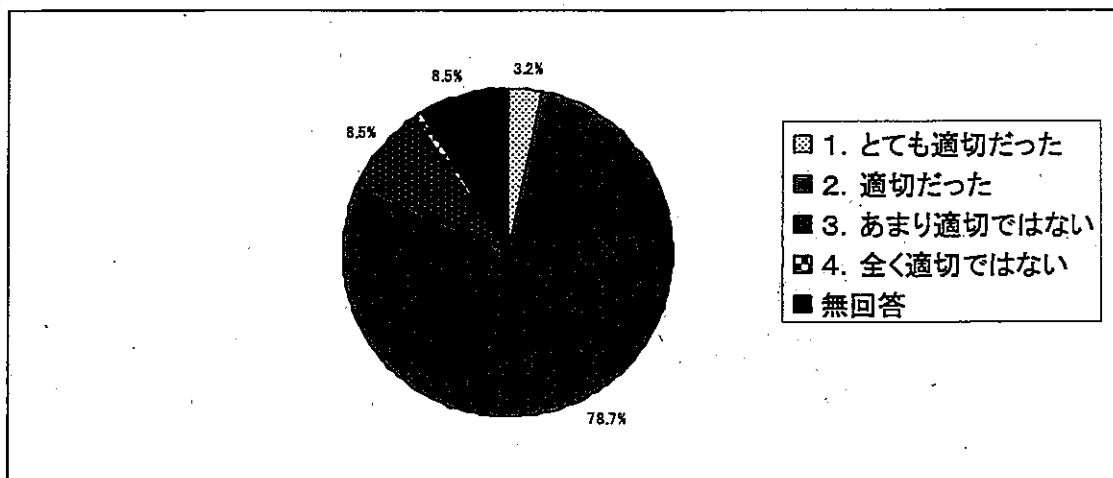


⑦「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか。

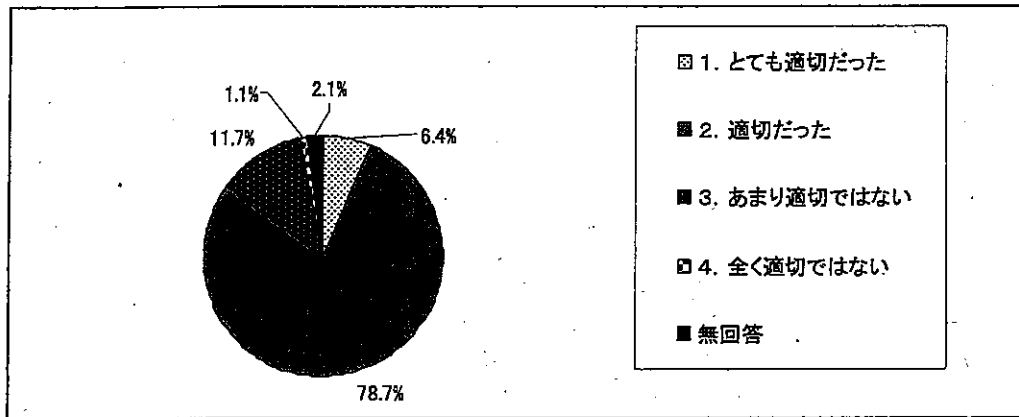


問2 本日の意見交換会についてお聞きます。それぞれあてはまるものところを○で囲んでください。

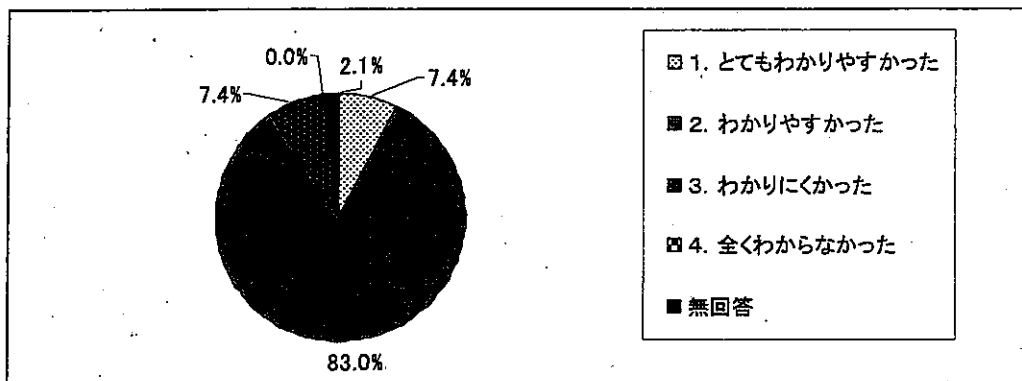
①意見交換会開催時期



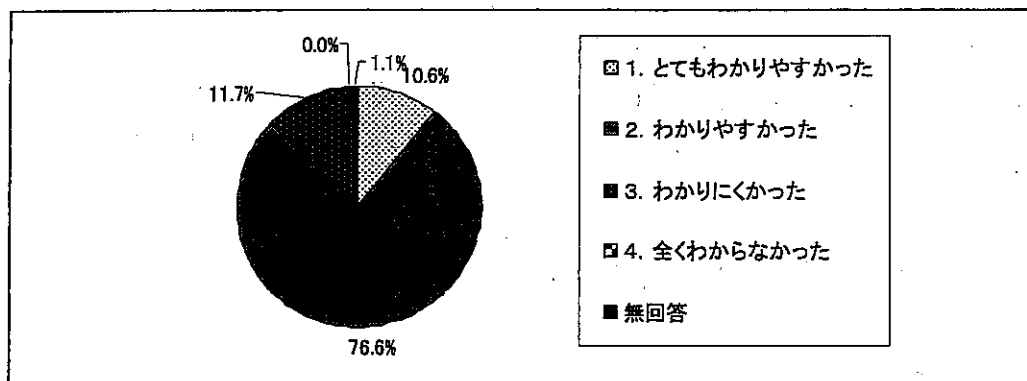
②開催方法(参加手続き・場所・所要時間)



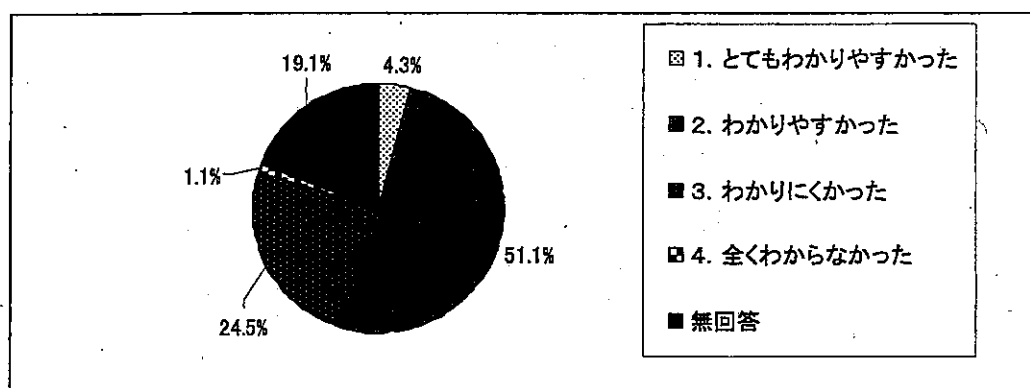
③配布資料



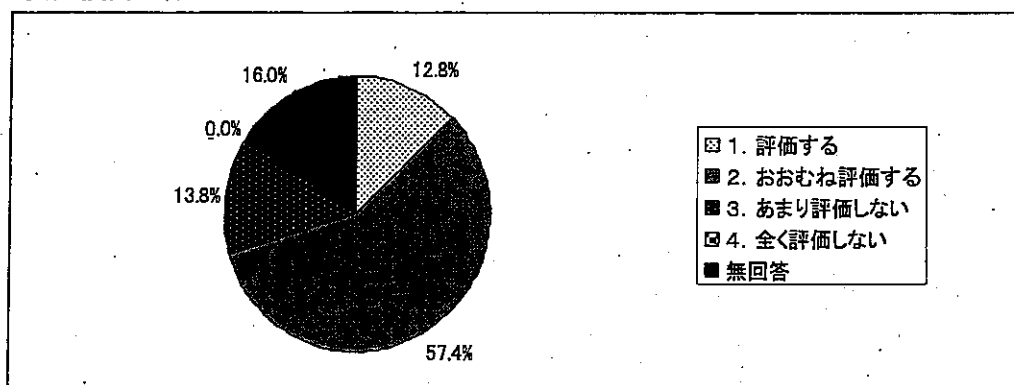
④専門家による講演



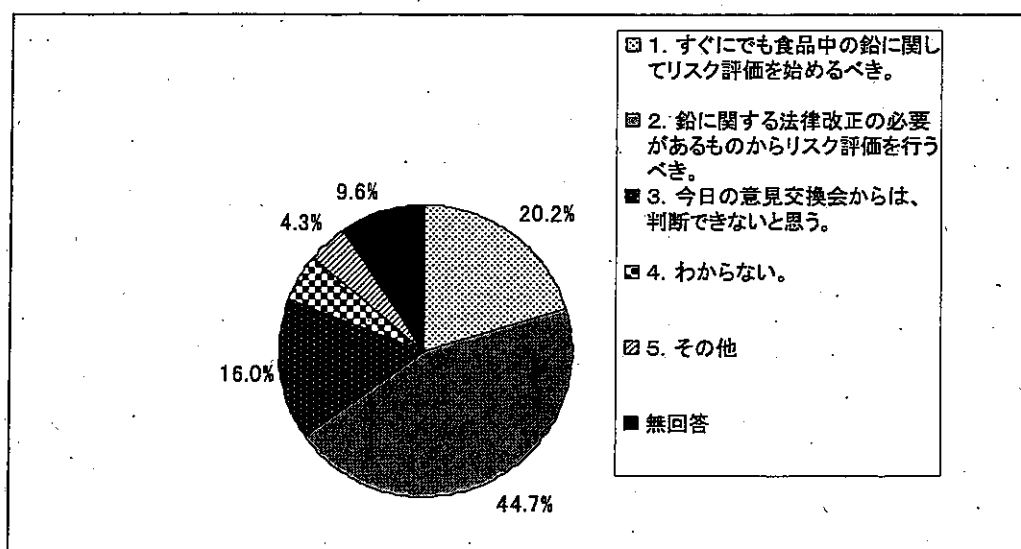
⑤意見交換時の応答



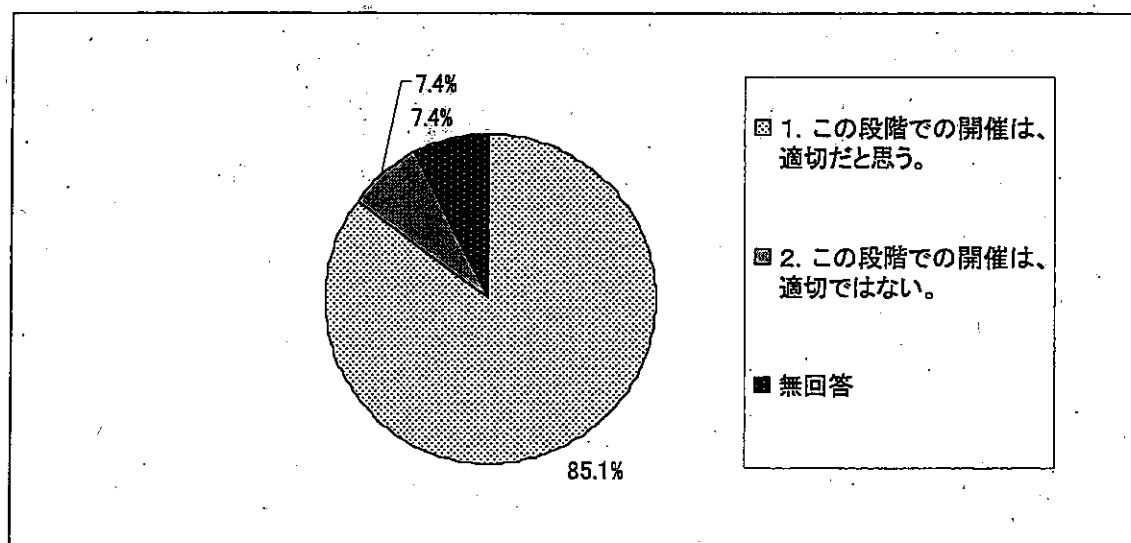
⑥意見交換会全体



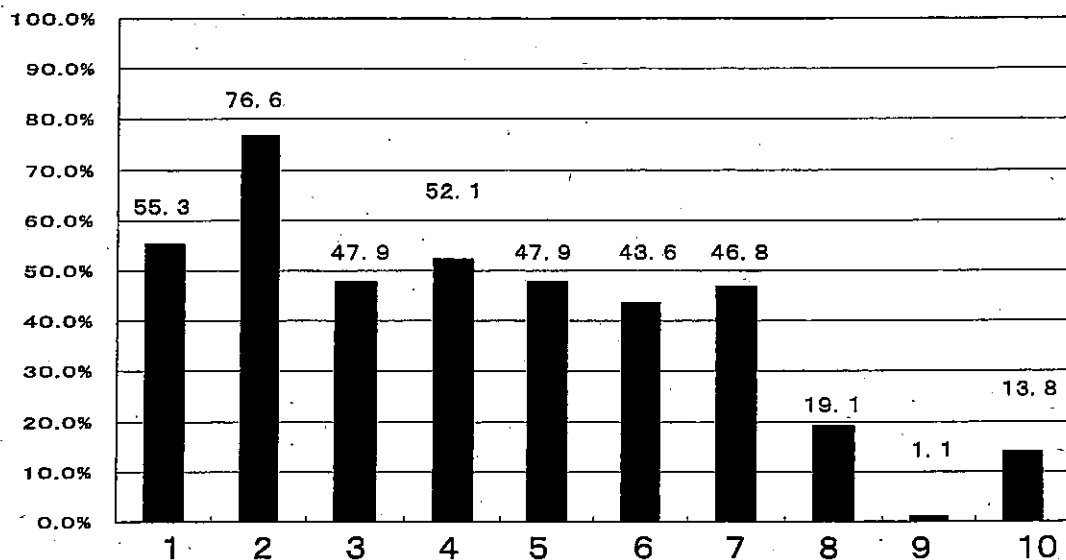
問3 食品安全委員会が自ら評価の判断により実施するリスク評価において、食品中の鉛に関する評価を行うことについて、どう思われますか。



問4 今回の意見交換会は、食品安全委員会が自らの判断により食品健康影響評価を実施するに当たり、関係者の皆様と意見交換をするというものです。このように評価を始める前に意見交換会を実施することについてどのように思われますか。

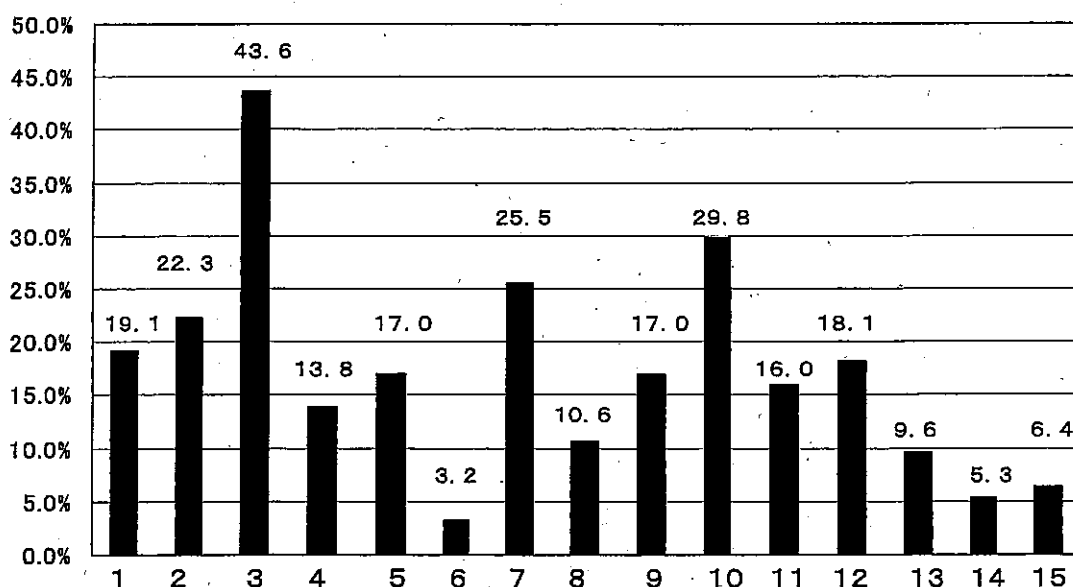


問5 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで、○をつけてください。



- | | | |
|-----------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと | 4. 食品安全委員会メールマガジン | 7. 食品の安全性に関する用語集 |
| 2. 食品安全委員会ホームページ | 5. 食品安全モニター制度 | 8. 食品の安全性に関する政府広報 |
| 3. 食の安全ダイヤル | 6. 季刊誌「食品安全」 | 9. その他 |
| | | 10. 無回答 |

問6 食品の安全性を確保していく観点から、意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げるテーマはどのようなものを希望しますか。当てはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。



- | | | |
|-----------------------|--------------------------|------------------|
| 1. 食品添加物 | 6. BSE | 11. リスクコミュニケーション |
| 2. 残留農薬 | 7. 食中毒(微生物・ウイルス・かび毒・自然毒) | 12. リスク分析の考え方 |
| 3. 食品中に存在する汚染物質・化学物質 | 8. 鳥インフルエンザ | 13. 食育 |
| 4. 遺伝子組み換え食品 | 9. 新開発食品 | 14. その他 |
| 5. 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質) | 10. いわゆる健康食品 | 15. 無回答 |